

# 評価報告概要表

## ■第三者評価機関

名 称	社会福祉法人 山口県社会福祉協議会
評価調査日	平成27年 1月22日 (木)

## ■福祉サービス事業者情報

名 称	たちばな園	種 別	障害者支援施設
代表者氏名	園長 田代 修一	開設年月日	昭和52年6月1日
設 置 者	社会福祉福祉法人 山口県社会福祉事業団	定員(利用人数)	60人(57人)
所 在 地	〒742-2802 大島郡周防大島町大字由良1020		
電 話 番 号	0820-73-1011	FAX番号	0820-73-1446
ホームページアドレス	<a href="http://www.sea.icn-tv.ne.jp/~tachi-en/">http://www.sea.icn-tv.ne.jp/~tachi-en/</a>		

## ■総 評

### 全体を通して(事業所の優れている点、独自に工夫している点など)

#### ◇特に評価の高い点

「その人らしさを大切に」という理念が施設全体に浸透しており、組織力の強さが感じられた。利用者自治会活動、全員朝会、自主献立委員会などで利用者の意見が多く反映されるなど、活発な取り組みがなされていた。特に毎月の全員朝会は、施設からの連絡事項だけでなく、利用者からの要望、意見を聞き、職員、利用者が共通認識するための大切な役割を果たす場となっている。

今回第三者評価は四回目であり、この事業を活用し、積極的に改善に取り組んでいこうという姿勢は、施設全体の士気を高めているのは明白である。また施設長はじめ職員が、質の向上に取り組んでいるところは高く評価できる。また定期的な自己評価により、職員の思いを聞く機会が設けられており、人事考課のシステムに十分活かされている。

また各業務の標準化により、業務の点検、見直しを行うシステムが分かりやすく整備されていることが評価される。

#### ◇改善を求められる点

「地域とともに歩む施設づくり」に取り組み、地域との相互交流により、地域から施設への支援、協力という関係は出来ているが、社会福祉法人・福祉施設として地域社会の課題解決に向けた取り組みがこれからであり、その積極的な体制づくりが、今後期待される。社会福祉士や介護福祉士などの実習の受け入れ体制の整備もその一つである。

また利用者のサービス等利用計画と個別支援計画とのつながりが見えにくかったので、相談事業所との連携を深め、誰が見ても見やすい計画にしていこうと、今後介護保険や地域への移行にも繋げてほしい。利用者の高齢化が増す中、成年後見制度の紹介・利用増についての対応も同様である。

施設設備の面では、高齢化に対応した段差、階段の改修と、車椅子の利用が可能な環境づくり、男子棟の浴室内の改修など、今後期待したい。

## ■第三者評価結果に対する事業者のコメント・事業所のPR

今回で四回目の受審となります。毎回、当園の現状や支援について振り返る貴重な機会となっています。

今回の受審では、前回の受審結果を踏まえた取り組みや、当園の利用者の状況や施設の現状について、ご指摘や今後のサービス向上の参考となる助言をいただきました。

今後、評価内容について、職員で共通認識を図り改善に向けた取り組みを行うことで、これからも「その人らしさを大切に…」福祉サービスの向上に努めて参ります。

# 評価報告概要表

## ■評価分野別評価結果(分野別の特記事項)

I 福祉サービスの基本方針と組織	a	12	b	0	c	0	Na	0
<p>理念や基本方針については、ホームページをはじめ、事業計画、パンフレット、広報誌、掲示板などに分かりやすく、見やすいところに掲示されており、職員会議での説明、利用者、保護者、関係者、地域に対して周知が徹底されている。「その人らしさを大切に」という基本理念は分かりやすく、利用者の人権や意思を尊重し、エンパワメントの視点に立ったもので、目指す所が明確になっている。</p> <p>事業計画については、透明性が保てるよう、それぞれの職種で検討したものを運営委員会にかけ、修正を加え再び職員で検討するという、職員、利用者の声が反映できるシステムとなっている。また、施設長の指導力は、経営分析、サービスの質の向上、人事考課の上でも確認でき、何事にも積極的な取り組みが感じられた。</p>								

II 組織の運営管理	a	21	b	0	c	1	Na	0
<p>地域懇談会を通じて地域のニーズを吸収し、災害時要援護者の一時避難場所として指定を受ける等、地域に貢献している。また、経営分析を行い、改善すべき課題の抽出も行っている。待機登録者の減少や、利用者の高齢化問題などに対する対策も検討されている。専門職のレベルアップ、人材育成の為に、資格取得助成制度を制定し、今年度は1名のチャレンジがあった。</p> <p>前回受審の結果、課題として残されていた職員個々の研修計画は、全員に設定されていた。職員の資質向上への取り組みは積極的に実施されているが、実習生の受け入れについては、保育実習生6名の受け入れのみであり、施設も社会資源の一つとして社会に貢献するには、介護福祉士等の養成実習を受ける体制が今後できることを期待する。</p>								

III 適切な福祉サービスの実施	a	21	b	1	c	0	Na	0
<p>人権委員会を3ヶ月に1回開催、身体拘束廃止や虐待防止についても職員会議などで周知している。また、毎年、利用者の満足度調査を実施、食事については、嗜好調査を行い食事の内容に反映させている。利用者の意見を聞く場の一つとして、毎月、全員朝会を開催している。</p> <p>自己評価による課題は、職員会議などで説明、検討を行っているが、その時だけでなく、継続的な取り組みとなって、事業計画に反映していくことを期待する。第三者評価事業の受審を3年に一度、繰り返し実施しており、サービスの質に対し常に前向きに検討されている。今後の課題としては、利用者の個別支援計画とサービス等利用計画の関連性が、もっと分かりやすく見やすいものになっていくことを願いたい。</p>								

IV 良質な個別サービスの実施	a	31	b	0	c	0	Na	3
<p>利用者の主体性を尊重した自治会活動や自主献立委員会などをバックアップ、全員朝礼では利用者の意見が自由に言える場として活用している。音楽活動や園芸、陶芸、手工芸、園外実習、販売、園外調理実習など多彩なメニューを取り入れ、エンパワメントの理念をもとにサービス提供がされている。女子棟の浴室のスロープや床面の改修を実施され、使いやすくなっていたが、男子棟も同様に考慮され、利用者の安全面の検討を期待する。</p> <p>利用者の高齢化が進んでいく中で、車椅子利用者の増加も今後は予測できるので、車椅子でもスムーズに移動できるよう設備面の整備を期待したい。また、相談支援事業所を立ち上げ、地域の障害者の福祉ニーズに対応できる機能を持って、計画相談を進めているので、利用者の将来の不安が少なくなるよう、関係機関との関係作りが大切となる。</p>								